

JR新潟駅周辺地区

(新潟県新潟市)

- 計 画 期 間 平成 20 年度～平成 24 年度
- 面 積 43 h a
- 交付対象事業費 631 百万円
- 市人口 776, 468 人

ポイント

新潟駅南側市街地の賑わいのある
まちづくり

地区概要

幹線道路を整備することで、歩道の連続性の確保や地区外からのアクセス性を向上させるとともに、地区内に存在する低未利用地の利活用を促進することで、より拠点性の高い地区を目指す。

目 標

- メインルート（駅南線（けやき通り））の活性化
- 歩行者空間の整備による歩行者の安全性・快適性の向上
- 低未利用地の高度利用や、駅前広場のオープンスペースの利活用による拠点性の向上

指 標

駅南線の歩行者交通量の増加

歩行者の安全性・快適性が向上し、新潟駅周辺地区への来訪が増加する。

地区内における低未利用地の割合

低未利用地が高度利用され、拠点性が向上する。

まちづくり活動の参加人数

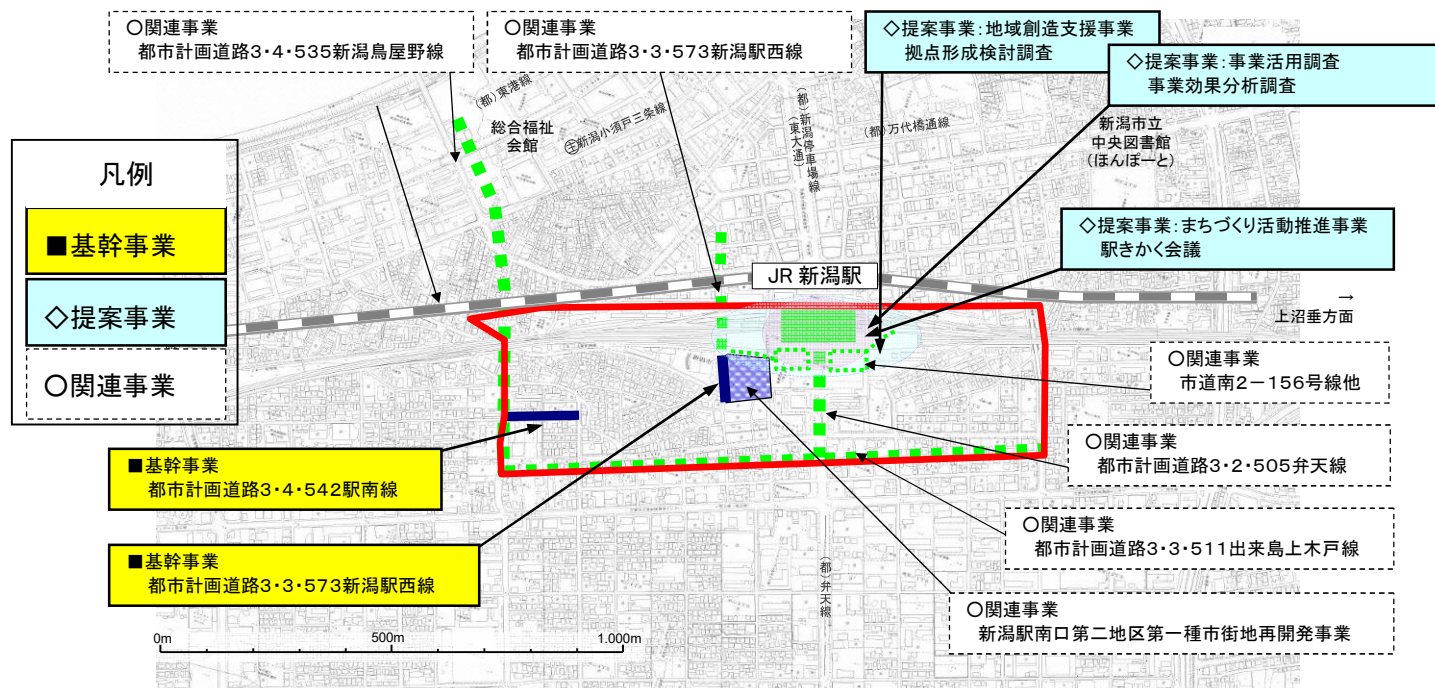
地区内におけるまちづくりへの機運が高まることで、拠点施設の活性化や地区内の賑わいに繋げる。

項目	現況値	(年)	→	見込み値	(年)	実績値	(年)
駅南線の歩行者交通量の増加	4,196人 / 日	(H18)	→	4,620人 / 日	(H24)	2,775 / 日	(H24)
地区内における低未利用地の割合	5.7ha	(H15)	→	5.1ha	(H24)	4.6ha	(H24)
まちづくり活動の参加人数	240人	(H18)	→	264人	(H24)	280人	(H24)

事業内容

基幹事業（607 百万円） → 道路（街路事業 幅員 22m、延長 110m 及び 幅員 16m、延長 153m）

提案事業（24 百万円） → 拠点形成検討調査、事業効果分析調査、駅きかく会議



地区の現況と課題

JR 新潟駅周辺地区は、新潟駅の南口に位置する地区であり、鳥屋野潟南部と新潟駅を結ぶ地区となっている。

現在は、平成 21 年に開催された『トキめき新潟国体』に合わせ、新しく新潟駅南口広場が整備され、また市街地再開発事業も始まっており、新潟市の陸の玄関口として拠点性が徐々に高まっている。さらに、新潟駅付近連続立体交差事業や周辺の幹線道路などが整備予定であるなど、将来的に集客力を高め、賑わいの活性化が期待される地区となっている。

しかし、現状では、拠点となる施設周辺において、歩行空間の連続性が確保されていないため、訪れる人々にとって、快適な歩行空間を整備する必要がある。

また、地区内には低未利用地などが多く存在しているが、これらと新しく整備された南口広場の利活用を、市民も交えて考えていくことにより、将来的な市街地の活性化に繋げることができる。

提案事業の特徴

拠点形成検討調査

現在、駐車場、駐輪場などとして暫定的に利用されている新潟駅周辺整備事業用地（旧国鉄清算事業団用地）のうち、公共施設（新潟駅南口広場等）の対象外となる土地について、民間活用を基本に、新潟駅周辺にふさわしい拠点形成を図る土地として、活用を推進する。

駅きかく会議

新潟駅周辺整備の計画づくりに市民参加を取り入れてきた連続性を絶やすことなく、ワークショップ等を通じて、整備後の新潟駅南口広場の活用について広く市民意見の収集等を行った。

計画策定プロセス

新潟駅周辺整備計画

当地区を含む新潟駅周辺においては、新潟駅付近連続立体交差事業を始めとした、新潟駅周辺整備計画を進める中で、広く市民意見を取り入れており、これを踏まえ、本計画を策定している。

ワークショップの開催

新潟駅南口広場においては、平成 15 年からワークショップ等を開催し、広場の利活用や整備について市民の思いを反映させてきた。



新潟駅南口第二地区と
新潟駅西線の整備イメージ



現在の新潟駅南口第二地区と新潟駅西線



メインルートである駅南線（けやき通り）



南口広場での実験イベント



駅きかく会議でのワークショップの様子